

介護保険レセプトデータに基づく福祉用具の利用分析－歩行器の製品別利用者数と機種変更の状況－

Utilization Analysis of Assistive Devices based on Receipt Data of Long-Term Care－The number of users of walkers by product and status of walker model change－

○池ノ谷綾音¹, 松本吉央², 金雪瑩³, 田宮菜奈子³ (1 筑波大/産総研, 2 産総研/筑波大, 3 筑波大)

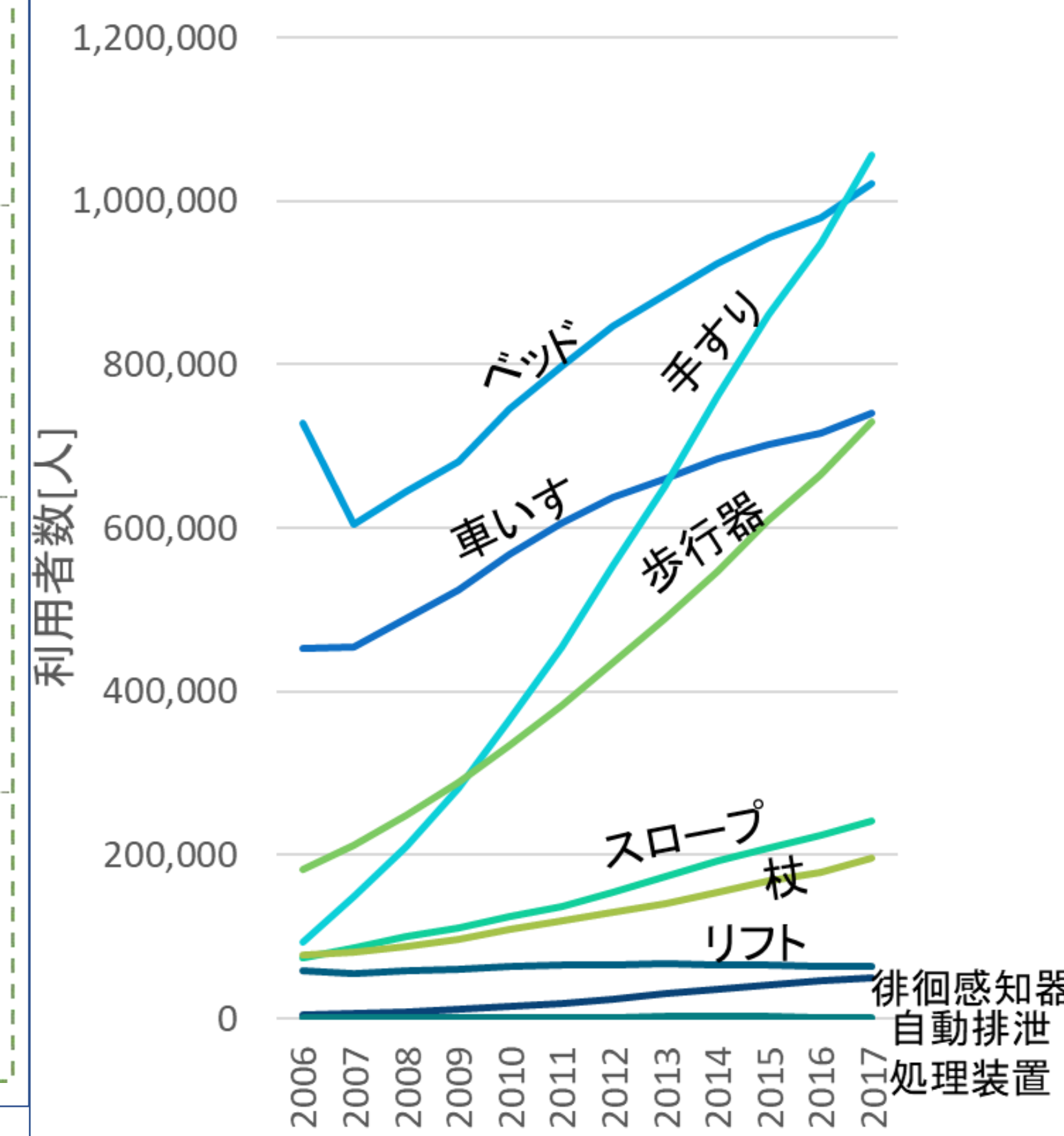
1. 背景・目的

- 要介護認定された高齢者は介護保険制度を利用し, 少ない費用負担で13種目の福祉用具をレンタルできる。(電動アシスト歩行器も含む)
- 電動アシスト歩行器の社会普及を実現するには, 歩行器利用者の介護保険制度の活用方法を把握することが重要である。
- 本研究では, 介護保険レセプトデータを用いて歩行器タイプごとの利用状況を分析することを目的とした。

介護保険で貸与できる福祉用具



介護保険における福祉用具の利用者数



※2006年度～2017年度の
全国介護保険レセプトから集計

福祉用具利用者は増加しており,
特に歩行器の利用者は急増

歩行器タイプ



2. 介護保険レセプトデータ

- 介護保険の費用請求の明細データ
→介護保険利用者の属性とサービス利用状況が分かる。
- 本研究では, 利用年月, 匿名化された利用者ID, 年齢, 性別, 要介護度, 福祉用具種目等を利用
- 2017年10月以降はTAISコード(製品ごとに付けられたテクノエイド協会福祉用具情報システム上の管理コード)も記載
→製品ごとの利用分析が可能になった。

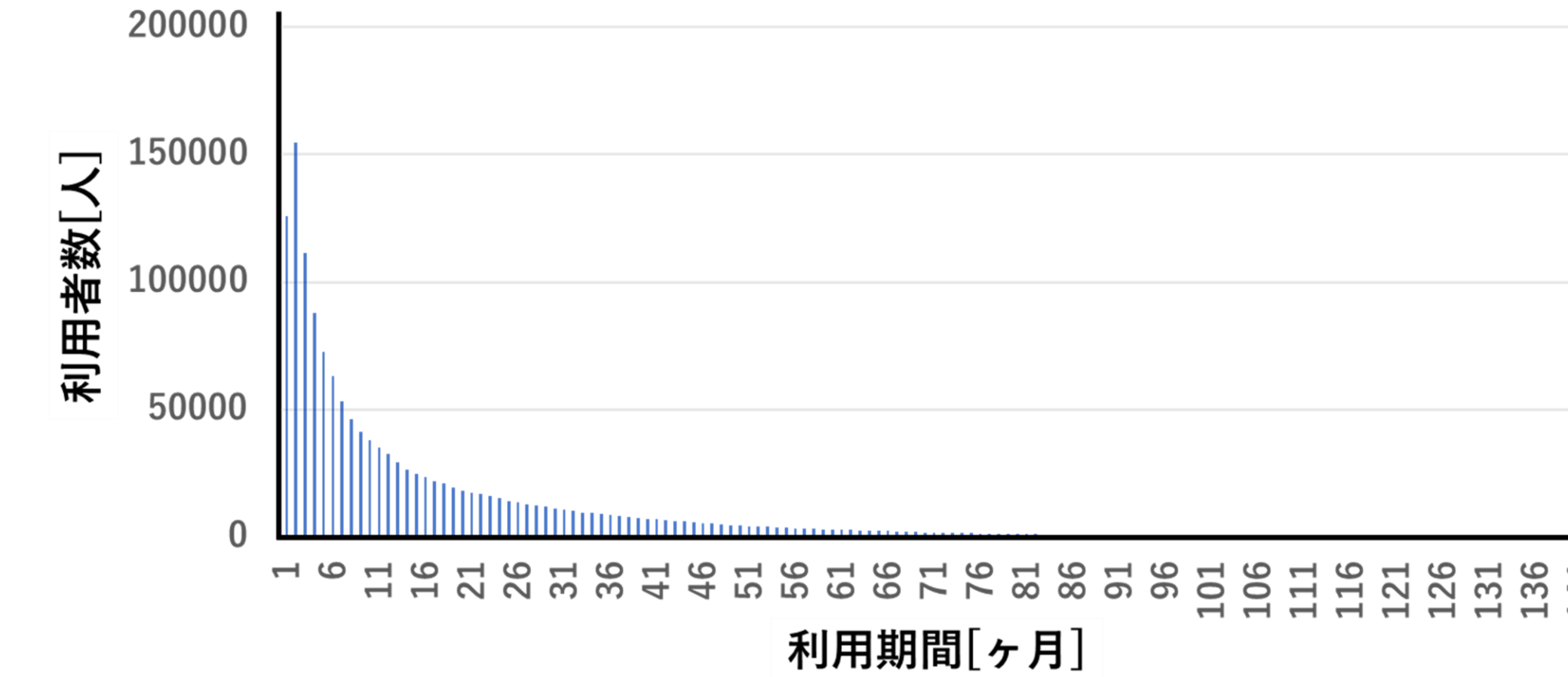
※筑波大学田宮研究室が厚生労働省に申請し, 入手した全国規模の介護保険レセプトデータ(2006年度～2017年度, 1000万人超)を用いて行った。

3. 分析結果

3.1 歩行器利用者の利用期間

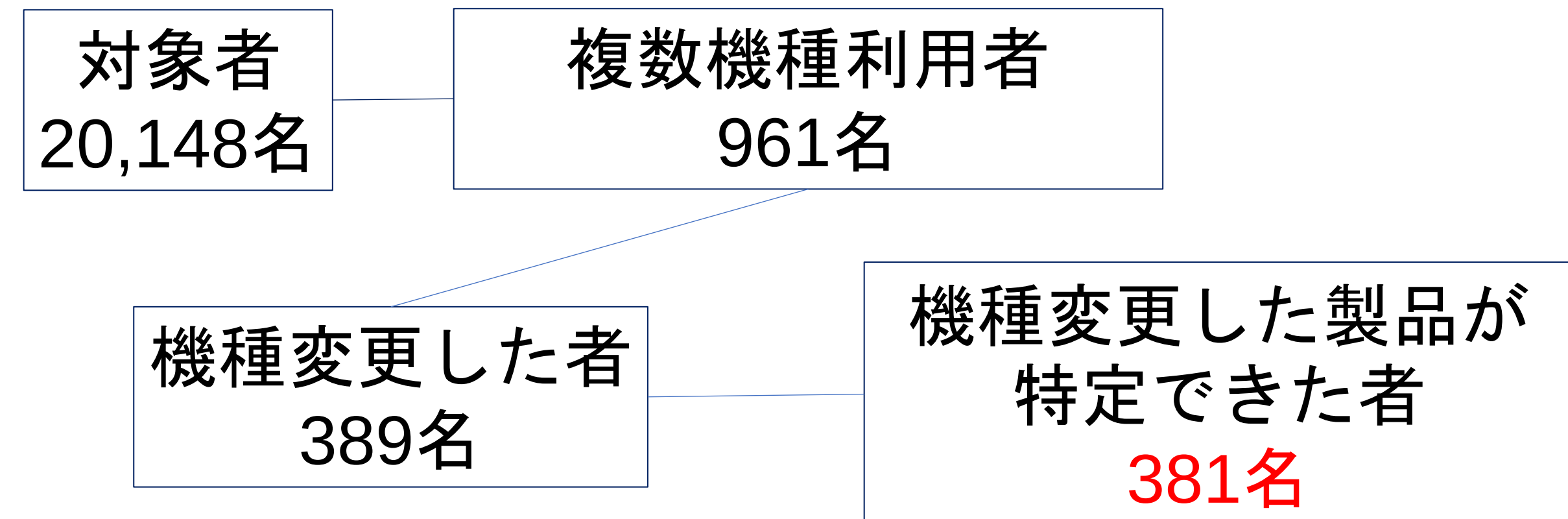
- 対象期間:12年間(2006年4月から2018年3月)
- 歩行器利用者数:約143万人
- 平均:15.9ヶ月
- 最長:144ヶ月(12年)
- 最頻:2ヶ月(約16万人)

歩行器貸与利用期間別利用者数



3.3 歩行器貸与利用者の機種変更の状況

- 対象期間:2017年10月から2018年3月
- 対象:対象期間中に歩行器の利用を開始, かつ終了した人



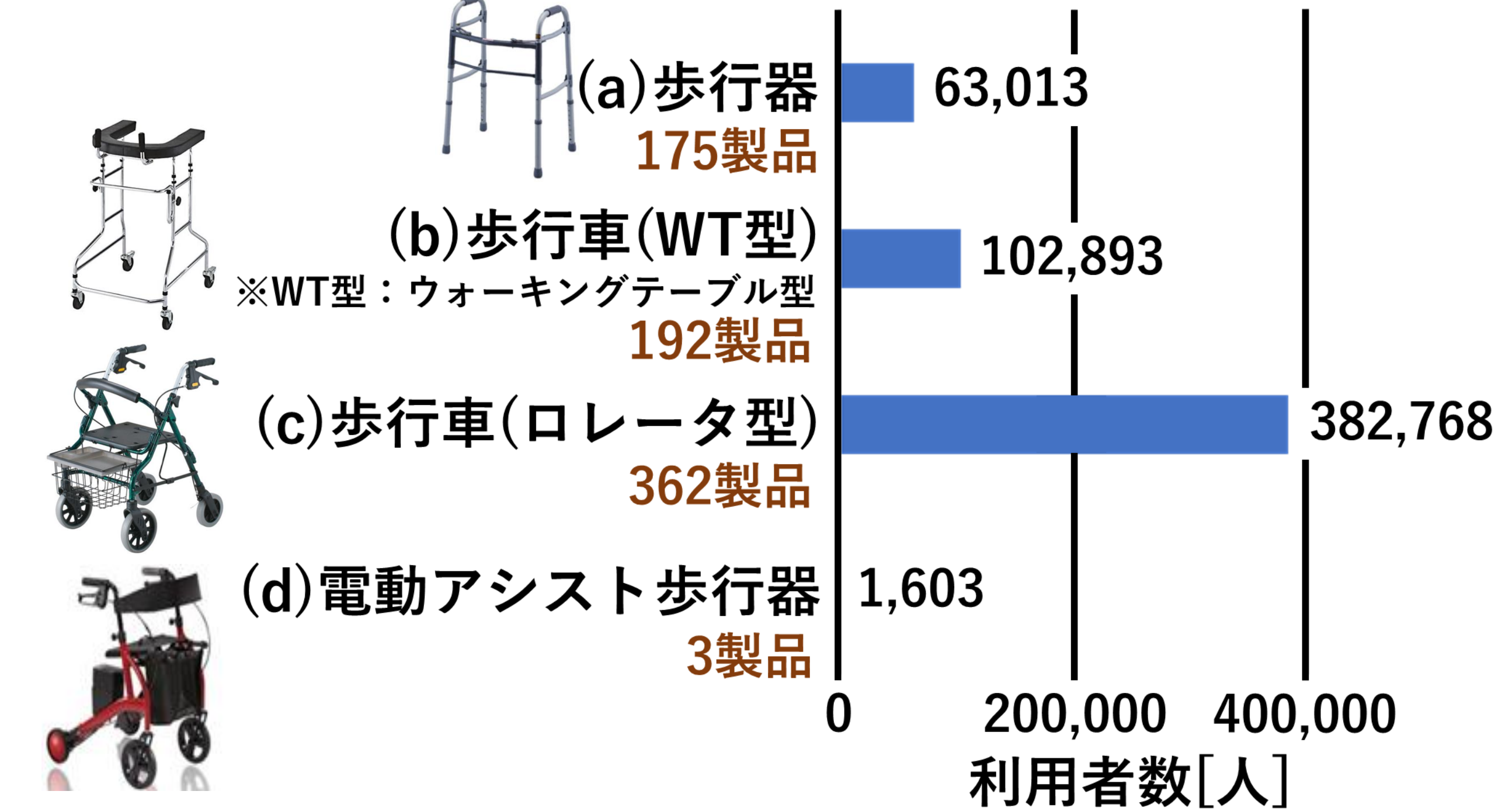
歩行器タイプの遷移パターン別利用者数

		遷移後			
		(a)歩行器	(b)歩行車(WT型)	(c)歩行車(ロレータ型)	(d)電動アシスト歩行器
遷移前	(a)歩行器 [n=60]	41.7%(25人)	30.0%(18人)	26.7%(16人)	1.7%(1人)
	(b)歩行車(WT型) [n=106]	8.5%(9人)	45.3%(48人)	46.2%(49人)	0%(0人)
	(c)歩行車(ロレータ型) [n=221]	3.2%(7人)	14.0%(31人)	82.4%(182人)	0.5%(1人)
	(d)電動アシスト歩行器 [n=2]	0%(0人)	0%(0人)	100%(2人)	0%(0人)

3.2 歩行器タイプ別利用者数

- 対象:2017年12月の歩行器利用者

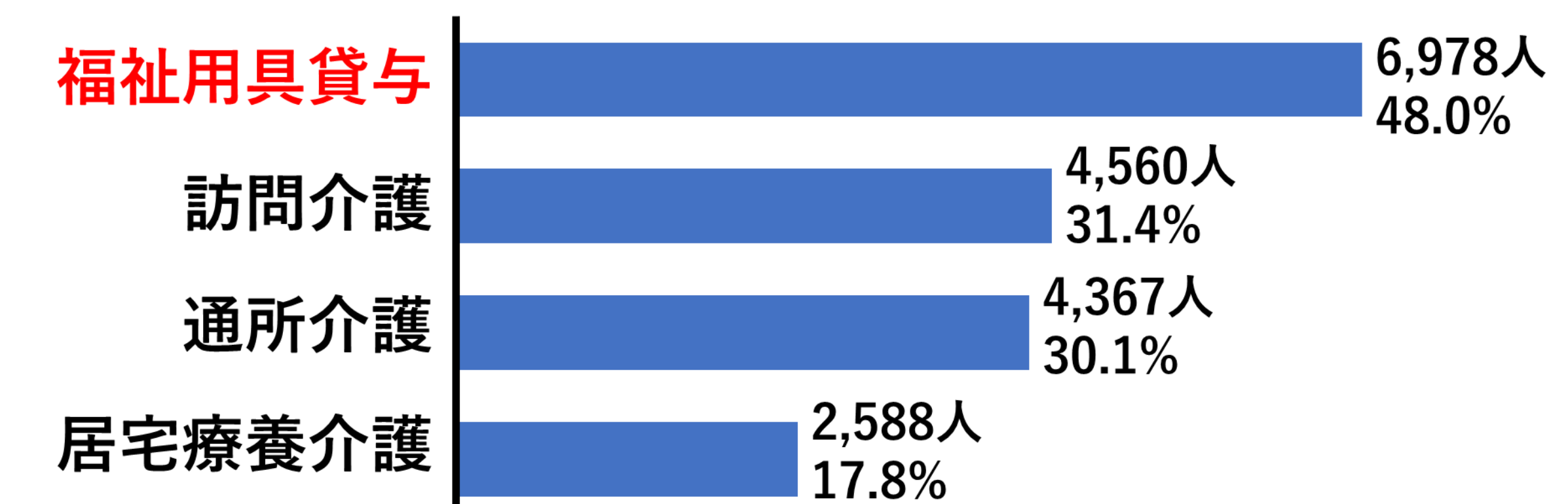
歩行器タイプ別利用者数



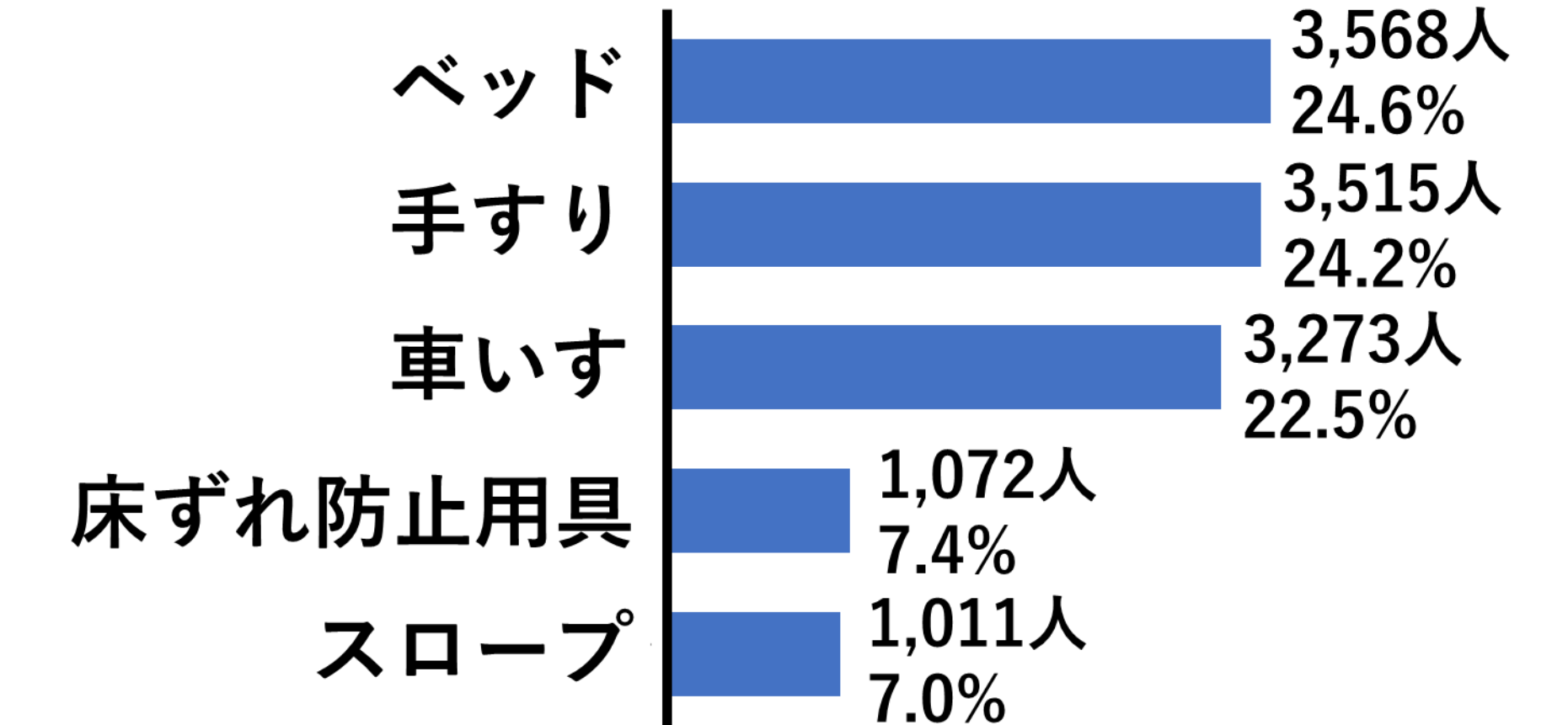
3.4 歩行器の利用中止翌月のサービス利用

- 対象:2018年2月に歩行器の利用を中止した人
- 歩行器の利用中止後も介護保険サービスを利用している人の割合:42%

主な介護サービス内訳



主に利用されている福祉用具の内訳



4. まとめ

- TAISコードにより歩行器全体だけでなく歩行器タイプごとという詳細な利用状況の把握が可能となった。
- 介護保険サービスの歩行器利用者はレンタルという点を活用し, 身体状況に応じて利用する福祉用具や機種を変更することで, 在宅生活の維持に繋がっていることが考えられる。
- 今後は, 電動アシスト歩行器の利用効果を利用者の身体状況と関連付けて分析を進めていきたい。